

2025 High School Students' Conference on Inquiry and Practice in Relation to the Sustainable Development Goals (SDGs)

宮城県宮城第一高等学校 / Miyagi First Senior High School
Presenters : D.O. / A.S. / T.S. / L.K.

1日目

私たちは、台湾の國立臺南第一高級中學（台南一中）で開催された「SDGsの探究と実践に関する会議」に参加いたしました。

各国から集まった高校生たちが、自らが行った様々な研究を、SDGsの観点から英語で発表していて、私たちもたくさんの刺激を受けました。

私たちの班では、「異なる宗教が共存できる街づくり～イスラム教に焦点を当てて～」というテーマで発表させていただきました。もともと行っていた、学校の授業での探究活動を延長させ、東北大学の留学生や、仙台イスラム文化センターの方々にお力添えをいただき、今日に至るまで自分たちの発表を深めていくことができました。

他の班で印象に残った発表は、マレーシアのバトゥパハの中国人学校のもので、この班は学校に侵入してくる猿がもたらす病気についての解決策を探究しており、日本では考えられないような日常の困難についての題材が興味深かったです。

会議後はディナーパーティーが開催され、私たちのテーブルでは台南一中のガイドの生徒と、ベトナムの生徒と食事を楽しみ、お互いの発表や国の文化について交流し、非常に楽しく貴重な経験を得ることができました。



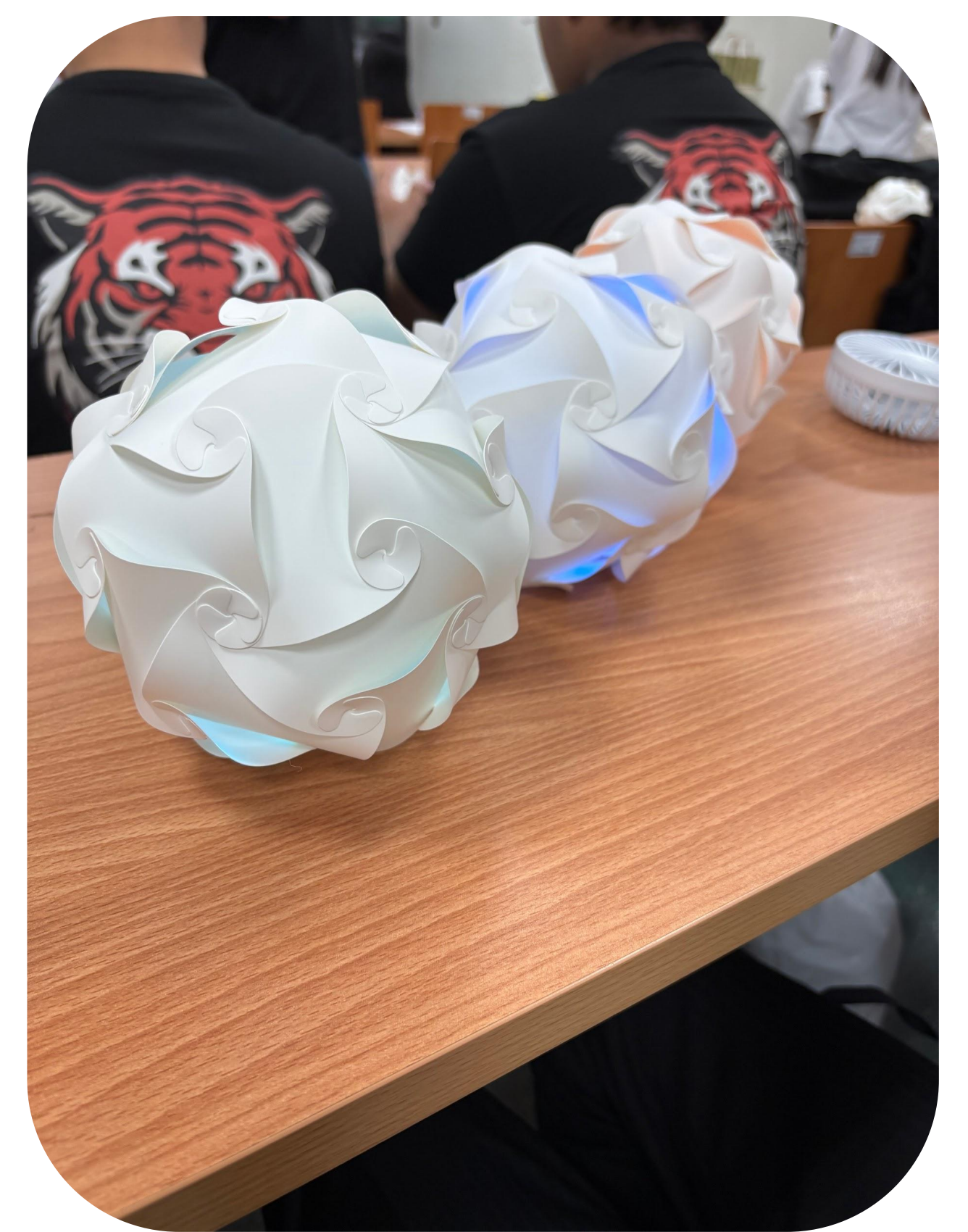
2日目

2日目は、成功大学での講義とディスカッションに参加しました。

まず、成功大学の教授によるさまざまな分野の講義を拝聴し、幅広い知識と新たな視点を得ることができました。昼食後には、教授や大学生の方々と英語でコミュニケーションを取りながら、「IQランプ」の組み立て体験に参加しました。英語で数学の説明を聞き取るのは難しく感じる場面もありましたが、非常に興味深く、貴重な体験となりました。

その後のディスカッションでは、「災害」をテーマに、SDGsの観点から意見を交わしました。この時間を通して、1日目には関わることができなかった他国や他校の参加者と交流することができ、英語でのやり取りの難しさと同時に、伝わったときの喜びや楽しさを改めて実感しました。

この1日を通して、SDGsについての理解を深めるとともに、英語を積極的に使うことができ、とても充実した時間となりました。



3日目

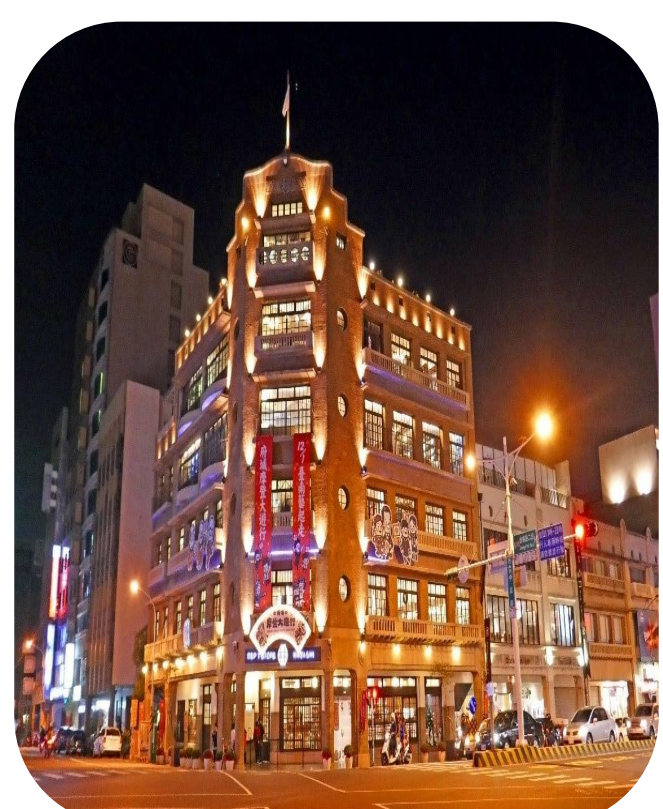
3日目では文化訪問を通して台湾の深い歴史と多様な文化に触れることができました。台湾文学史に対する「素晴らしい文学作品が残されていくことで後世の人がそれを記憶の土台とし、新たな革新的な作品を生み出し、人々の記憶倉庫を豊かにした。これこそ台湾文学史だ。」という言葉は、文学が単なる表現活動に留まらず、時代を超えて人々の心を繋ぎ、文化を紡いでいく力を持つことを示唆し、深く心に残りました。

また、台湾の各都市がそれぞれ異なる機能を持っていたこと、そして安平（アンピン）が開港され、西洋の医療や教育が導入される中で国際貿易の拠点として発展していったという歴史的背景を知ることができたのは、大きな発見でした。交易や資源という視点から台湾の成り立ちを紐解くことで、現代の台湾社会が形成されるに至った多層的な歴史を理解することができました。

研修中、林百貨店という台南の特産品を取り扱うお店に寄ることもできました。この歴史ある百貨店では、台湾名産のガラスミをイメージしたユニークな商品や、現地の漁師が使う網をモチーフにした「漁師網バッグ」が並んでおり、台湾ならではのクリエイティブなデザインと伝統の融合を感じることができました。特に、現役で稼働している台南最古のエレベーターは、モダンな雰囲気と歴史が織りなす空間を生み出し、日本統治時代の面影と現代の台湾の息吹が共存する様子を肌で感じるすることができました。

台湾での滞在中、人々の服装がノーメイクでラフな格好の人が多くことに気づきました。東京のような高層ビルが立ち並ぶエリアもありましたが、全体的にはレトロな雰囲気の街並みや店が多く、縦長の住宅が目立ちました。

台湾の多様な側面を知り、その歴史と文化、そして人々の暮らしに深く触れることができました。この経験は、単なる知識の習得に留まらず、異文化への理解を深め、物事を多角的に捉える視点を与えてくれたと思います。



国際交流

本会議には、日本、台湾、ベトナム、マレーシア、フィリピン、タイ、香港の7つの国と地域から40チームの高校生が参加しました。どのチームも日本とは異なる社会問題を抱えており、それぞれの文化や社会情勢を背景とした視点から解決策を模索していました。日本の会議や発表会では得られない、多様な視点に触れることができたのは大きな収穫です。

会議初日のディナーパーティーでは、ベトナムの高校生たちと同じテーブルになりました。互いの文化や学校について語り合ったり、クイズアプリ「Kahoot!」でそれぞれの国に関するクイズで競ったりと、すぐに打ち解けて交流を楽しむことができました。

また、国際交流を促進するため、ホテルは他の国の参加者との相部屋でした。ディナーパーティーで仲良くなったベトナムの高校生たちとホテル周辺を散策したり、部屋でポーカーをしながら語り合ったりして、さらに仲を深めることができました。特に、日本企業が建設に携わったことで有名なホーチミンメトロの話などを通じて、ベトナムの経済発展の様子を当事者の生の声として聞いたことは、東南アジアの現状をリアルに知る貴重な機会となりました。

今回の会議では、台南一中から2名の生徒が「バディ」として私たちの行動をサポートしてくれました。彼らは日本語が非常に流暢なうえに英語も堪能で、台湾のトップ高校のレベルの高さに驚かされました。台南一中では宮一だけでなく世界各国の高校と姉妹校提携を結んでおり、台湾にいながら多様な人々と交流する機会が豊富にあるそうです。さらに、台湾では大学などが主催する英語での発表の場も多いとのこと、彼らをはじめ台湾の高校生の発表は非常に場慣れしている印象を受けました。

